

令和5年度 地歴公民科 シラバス

1.	午前部	地理総合	・・・	P 2
2.	午前部	地理探究	・・・	P 3
3.	午前部	歴史総合	・・・	P 4
4.	午前部	世界史B	・・・	P 5
5.	午前部	日本史A	・・・	P 6
6.	午前部	日本史B	・・・	P 7
7.	午前部	公共	・・・	P 8
8.	午前部	現代社会	・・・	P 9
9.	午前部	政治・経済	・・・	P 10
10.	午前部	倫理	・・・	P 11
11.	(午後授業)	地理総合	・・・	P 12
10.	(午後授業)	地理探究	・・・	P 13
11.	(午後授業)	世界史A	・・・	P 14
12.	(午後授業)	日本史A	・・・	P 15
13.	(午後授業)	政治・経済	・・・	P 16
14.	(午後授業)	倫理	・・・	P 17
15.	夜間部	地理総合	・・・	P 18
16.	夜間部	地理B	・・・	P 19
17.	夜間部	歴史総合	・・・	P 20
18.	夜間部	日本史A	・・・	P 21
19.	夜間部	日本史B	・・・	P 22
20.	夜間部	公共	・・・	P 23
21.	夜間部	現代社会	・・・	P 24
22.	夜間部	政治・経済	・・・	P 25
23.	夜間部	倫理	・・・	P 26

地理総合 (午前部)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	<p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システム、諸資料を用いて、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>地理に関わる事象について、自然や文化などと関連させて、多面的・多角的に考察できることをめざす。地理的な課題の解決に向けて構想したり、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。</p> <p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>		
使用教科書	わたしたちの地理総合 世界から日本へ 高等地図帳 (ともに二宮書店)	補助教材	プリント (適宜配布)

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1章 地図とGISの利用	球面上での生活や世界地図、国家の領域について学習する。
	第2章 生活文化の多様性と国際理解	地図の効果的な活用方法について学習する。 世界の自然環境や産業の発展の様子について、人々の生活と関連づけて学習する。
後期	第3章 地球的課題と国際協力	食料問題、人口問題、資源・エネルギー問題などの諸問題などに注目して考察する。
	第4章 生活圏の諸課題	地震や津波などを事例にしながら、日本の自然災害について考察する。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、生活文化の多様性や地域・地球的課題などを理解しているとともに、地図などを用いて、適切かつ効果的に調べ、まとめている。	地理に関わる事象の意味や特色について人間と自然、社会的関係に着目して、多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けた構想をしたり、説明したりしている。	地理に関わる諸事象について、社会の形成者としてよりよい社会の実現のために、課題解決に向けて主体的に追究、解決しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

地理探究 (午前部)	単位数	4単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	国際化が進む現代社会において、さまざまな地域の風土と文化を学び、多文化共生社会の実現を目指し、また、日本人としてどのように国際的課題を解決していくかを考えられるように、地理的現象を学習し、日本と世界とのかかわり、日本が世界に果たす役割などを主体的に考え行動できる態度を育てる。		
使用教科書	「地理探求」「高等地図帳」 (ともに二宮書店)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第Ⅰ編 現代社会の系統地理的考察 第1章 自然環境 第2章 資源と産業 第3章 人・モノ・金のつながり 第4章 人口、村落・都市 第5章 文化と国家	世界全体を視野に入れ、自然環境の多様性や国際社会の結びつき、人間の地上における営みを学習する。
後期	第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 第1章 地域区分 第2章 現代社会の諸地域 第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像	世界の地域的な特徴を学ぶことで、その地域が世界や日本にどのような役割を果たしているのかを学び、それぞれの性格を多面的に理解する方法を身につける学習をする。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、自然環境や人間の営みなどの、基本的知識や多様な地域環境を理解しているとともに、図表を解読し、適切で効果的に調べ、まとめている。	地理に関わる環境の違いの仕組みについて人間と自然環境のかかわりに着目して、多面的・多角的に考察し、国際的な課題の解決に向けた構想をしたり、説明したりしている。	地理に関わる諸知識を生かして、国際人として、よりよい環境の実現のために、どのように行動すべきか、国際的課題の解決に向けて主体的に追究しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

歴史総合 (午前部)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	近現代史を中心とする歴史を、わが国の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
使用教科書	「私たちの歴史総合」 (清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1編 歴史の扉	歴史を学ぶ心構えと、世界全体の中で日本の歴史と各国の歴史がどのように関連しているのかを学び、考える。
	第2編 近代化と私たち	前近代から近代に向かう歴史の大まかな流れ、日本と諸外国の関係性を歴史的観点から学ぶ。
後期	第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	国民国家形成と国際社会の変化の中で、二次にわたる戦争が起こっていく過程を中心に、戦争の悲惨さや恐ろしさを学び、再び繰り返されないようにするにはどうしたらよいかを学ぶ。
	第4編 グローバル化と私たち	戦後の国際社会の秩序形成を学び、現代のグローバル化した社会の成り立ちと現代社会の課題などについて考える。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史に関わる諸事象に関して、諸外国との関係性や地域・地球的課題などを理解しているとともに、地図や歴史資料などを適切かつ効果的に用いて設問に答えたりまとめたりしている。	歴史に関わる事象の意味や影響についてその関連性に着目して、多面的・多角的に考察し、設問に答えたり、歴史的な課題の解決に向けた方策や構想を説明したりしている。	授業にきちんと参加し、課題に真剣に取り組むことを通して日本と世界の関係性を歴史的に理解し、グローバル化する社会の課題解決に向けて主体的に追究、解決しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

世界史B (午前部)	単位数	4単位 (140時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	世界史の大きな流れについて、日本の歴史と関連づけながら学習する。文化の多様性や人類の課題を考察し、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことを目標とする。		
使用教科書	「世界史B 新訂版」 (実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1部 諸地域世界の形成 第2部 諸地域世界の交流	風土、民族、宗教などに焦点を当て、諸地域世界の特質、交流を学習する。
	第3部 一体化にむかう世界 第4部 地球世界の到来	大航海時代以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の発展を中心に世界の一体化の過程を学習する。 一体化した現代世界の特質を様々な出来事を通して学習し、現代の課題について考える。

3 評価

履修の条件	世界史A履修後の選択が望ましい。
評価の方法	定期考査、課題提出、授業への関心・意欲・態度を総合的に判断する。
留意事項	特になし
アドバイス	世界の歴史の大きな枠組みと展開を学習します。授業での生徒の反応を検証しながら授業展開を調整します。なお、世界史Aの内容を深化させた内容になりますので、世界史に興味・関心がある生徒の履修が望ましい。

日本史A (午前部)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	私たちが生活する日本列島での歴史を、開国以後日本が急速に近代化される過程など近現代史を中心に学習する。歴史的思考力を培い、主体的に生きる資質を身につけることを目標とする。		
使用教科書	「高等学校日本史A 新訂版」(清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1章 近代への転換 第2章 大日本帝国の形成 第3章 大日本帝国の展開 (異国船の接近と幕藩体制の動揺から日露戦争までを扱う)	開国以後、明治維新を経て日本が急速に近代化されていく過程を国際環境と関連づけながら、日清戦争、日露戦争までを学習する。
後期	第4章 両大戦間の世界と日本 第5章 15年戦争と日本・アジア (第1次世界大戦から15年戦争までを扱う) 第6章 戦後改革と高度経済成長 第7章 現代の世界と日本 (敗戦後の占領の時代から今日までを扱う)	第一次世界大戦前後から第二次世界大戦(15年戦争)終結までの歴史を国際社会の動向と関連づけながら学習する。 第二次世界大戦(15年戦争)後の戦後改革と復興、高度経済成長と公害、そして今日の日本について国際社会と関連づけて学習する。

3 評価

履修の条件	日本史Bとの同時履修はできない。
評価の方法	定期考査、課題の提出状況、授業への取り組み態度を総合的に判断する。
留意事項	特になし
アドバイス	継続は力です。休まず粘り強く取り組みましょう。

日本史B (午前部)	単位数	4単位 (140時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
使用教科書	「高等学校日本史B 新訂版」(清水書院)	補助教材	各種プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	「原始・古代の社会・文化と東アジア」	旧石器時代から平安時代までの日本列島における社会・文化について、東アジア世界の動向と関連付けながら学習する。
	「中世の社会・文化と東アジア」	武家政権の成立から戦国時代までの社会・文化について学習する。
	「近世の社会・文化と国際関係」	織豊政権から江戸時代における社会・文化について、世界史的な流れと関連させて考察する。
後期	「近代日本の形成とアジア」	近代日本が形成されていく過程を、アジアにおける国際環境の変化や国際関係の推移に着目して考察する。
	「両世界大戦期の日本と世界」	第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる日本の歴史の展開について理解する。
	「第二次世界大戦後の日本と世界」	第二次世界大戦後の日本について、世界の動きと関連させて総合的に考察する。

3 評価

履修の条件	日本史Aの履修後の選択が望ましい。
評価の方法	① 授業への参加態度 ②出席状況 ③定期考査 ④課題の提出 を総合的に判断する。
留意事項	教科書や筆記用具など必要な物を必ず持参し科目担当者の指示をしっかりと聞くこと。
アドバイス	原始から現代までの日本の歴史を、「日本史A」よりも詳しく学習するので、日本史に興味・関心がある生徒の履修が望ましい。私たちの生活、文化がどのような過程で成り立っていくのか発見しよう。

公共 (午前部)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	広い視野に立って、公共の重要性について理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する力を養う。人間としてのあり方生き方について考える力を養い、公共という概念を理解し、主権者として必要な社会的能力を養う。		
使用教科書	「公共」 (実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1部 公共の扉 【1 青年期と自己の形成】 【2 人間と社会】	青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。 先哲の思想を知り、人間としてよりよく生きることや他者との共生について考え、個人の権利や自由、人間の尊厳を守るために社会が果たす役割や意義を理解する。
	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 【3 現代の民主政治と日本国憲法】	民主主義の重要性や政治のしくみについて理解し、私たちの生活とのかかわりや公民としての資質について考察する。
後期	【4 現代の経済社会と国民生活】	さまざまな経済制度のしくみ、経済活動の変化などについて学習する。日本経済の歴史と現状、これからの日本経済を考える基礎事項について学習する。
	【5 国際社会と人類の課題】 第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	国際関係の政治経済上のルールや、国際社会の現状、人類の課題と国際協力について学習する。 持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深める。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
公共に関わる諸事象に関して、社会の仕組みの基本となっている多様な集団や組織を理解しているとともに、図表を解読し、適切で効果的に調べ、まとめている。	公共に関わる事象の意味や仕組みについて人間と社会のかかわりに着目して、多面的・多角的に考察し、現代社会の抱える課題の解決に向けた構想をしたり、説明したりしている。	公共に関わる諸知識について、主権者としてよりよい社会の実現のためにどのように行動すべきか、課題の解決に向けて主体的に追究しようとしている。

現代社会 (午前部)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	広い視野に立って、現代の社会について理解する。現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する力を養う。人間としてのあり方生き方について考える力を養い、良識ある公民として必要な能力を養う。		
使用教科書	「最新現代社会 新訂版」 (実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1部 わたしたちの生きる社会	地球観光問題、資源と食料、科学技術と生命、宗教、芸術、豊かな社会について、現代人の視点から考える。 青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。先哲の思想や宗教の意義に触れ、生き方を考察する。 民主主義の重要性や政治のしくみについて理解し、私たちの生活とのかかわりや公民としての資質について考察する。
	第2部 現代の社会と人間 【1 青年期と自己の形成】 【2 現代の民主政治と日本国憲法】	
後期	【3 現代の経済社会と国民生活】	さまざまな経済制度のしくみ、経済活動の変化などについて学習する。日本経済の歴史と現状、これからの日本経済を考える基礎事項について学習する。 国際関係の政治経済上のルールや、国際社会の現状、人類的課題と国際協力について学習する。 持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深める。
	【4 国際社会と人類の課題】 第3部 共に生きる社会をめざして	

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への参加態度を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	倫理・社会・文化・政治経済など多岐の領域に関わる内容です。日頃から身の回りの事項に関心を持って生活をすれば、興味をもって毎回の授業に取り組めるでしょう。

政治・経済 (午前部)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	現代の政治・経済に関する基本的な概念や理論を学習し、政治・経済についての基本的な考え方を身につける。また、これらの学習を生かして、時事問題についても考察する。		
使用教科書	「最新政治・経済 新訂版」(実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 現代の政治	民主政治の本質や現代政治の特質について学習し、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察する。
後期	2 現代の経済	現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、現代経済の仕組みや機能について理解し、経済についての基本的な見方や考え方を身につける。
	3 現代政治・経済の諸課題	政治や経済などに関する基本的な理解をふまえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探求する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深める。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への関心・意欲・態度等を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	通年にわたり、現代の政治や経済に関する基本を学習し、現代の日本及び国際社会に抱える諸課題を考察します。ただし、授業での生徒の反応を検証しながら授業展開を調整します。

倫理 (午前部)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	通年にわたり、様々な宗教や哲学、思想などを基に自己のあり方、生き方を考察し、社会で生きる人間としての自覚を深めていく。		
使用教科書	「高等学校 新倫理 新訂版」 (清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 第2章 人生における宗教 第3章 人生の知恵 第4章 人生における芸術	「私とは何か」「人間とは何か」という問いへの考察を重ねてゆくことを通して、真理を探究する態度を養う。青年期が自立自立へ向かう大切な時期であること学ぶ。 ギリシャ先哲の思想や一神教の知識を身につける。東洋の人びとの精神形成に大きな影響を与えた、仏教・儒教等を理解する。 芸術が人間に生と美を与える事を知る。
後期	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚 第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	現代の人間の倫理的な課題についての思索を深め、国際社会に主体的に貢献しようとする人間のあり方生き方について考える。 日本の風土や伝統、外来思想の受容との関わりにおいて、日本人の人間観、宗教観、自然観についての理解を深め、国際社会に生きる主体性のある日本人としての自覚を深める。 現代の倫理的課題を深く学ぶことで、今日に生きる人間の課題について考える。生命の操作や地球環境問題など現代の倫理的な諸課題を提起し、その解決に向けて生徒自らの思考を喚起する。家族関係の本来の意義やたがいに支え合う地域社会のあり方を考える。持続可能な社会の形成と人類の福祉と平和とに貢献することを考える。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への関心・意欲・態度等を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	様々な価値観が入り乱れ、めまぐるしく変化する現代社会において、よりよく生きるためには何が必要なのか。共に考えましょう。

地理総合 (午後授業)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	世界の生活文化の多様性や、防災、地域地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システム、諸資料を用いて、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 地理に関わる事象について、自然や文化などと関連させて、多面的・多角的に考察できることをめざす。地理的な課題の解決に向けて構想したり、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		
使用教科書	わたしたちの地理総合 世界から日本へ 高等地図帳 (ともに二宮書店)	補助教材	プリント (適宜配布)

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1章 地図とGISの利用	球面上での生活や世界地図、国家の領域について学習する。 地図の効果的な活用方法について学習する。
	第2章 生活文化の多様性と国際理解	世界の自然環境や産業の発展の様子について、人々の生活と関連づけて学習する。
後期	第3章 地球的課題と国際協力	食料問題、人口問題、資源・エネルギー問題などの諸問題などに注目して考察する。
	第4章 生活圏の諸課題	地震や津波などを事例にしながら、日本の自然災害について考察する。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、生活文化の多様性や地域・地球的課題などを理解しているとともに、地図などを用いて、適切かつ効果的に調べ、まとめている。	地理に関わる事象の意味や特色について人間と自然、社会的関係に着目して、多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けた構想をしたり、説明したりしている。	地理に関わる諸事象について、社会の形成者としてよりよい社会の実現のために、課題解決に向けて主体的に追究、解決しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

地理探究 (午後授業)	単位数	4単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	国際化が進む現代社会において、さまざまな地域の風土と文化を学び、多文化共生社会の実現を目指し、また、日本人としてどのように国際的課題を解決していくかを考えられるように、地理的現象を学習し、日本と世界とのかかわり、日本が世界に果たす役割などを主体的に考え行動できる態度を育てる。		
使用教科書	「地理探求」「高等地図帳」 (ともに二宮書店)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第Ⅰ編 現代社会の系統地理的考察 第1章 自然環境 第2章 資源と産業 第3章 人・モノ・金のつながり 第4章 人口、村落・都市 第5章 文化と国家	世界全体を視野に入れ、自然環境の多様性や国際社会の結びつき、人間の地上における営みを学習する。
後期	第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 第1章 地域区分 第2章 現代社会の諸地域 第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像	世界の地域的な特徴を学ぶことで、その地域が世界や日本にどのような役割を果たしているのかを学び、それぞれの性格を多面的に理解する方法を身につける学習をする。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、自然環境や人間の営みなど、の基本的知識や多様な地域環境を理解しているとともに、図表を解読し、適切で効果的に調べ、まとめている。	地理に関わる環境の違いの仕組みについて人間と自然環境のかかわりに着目して、多面的・多角的に考察し、国際的な課題の解決に向けた構想をしたり、説明したりしている。	地理に関わる諸知識について、国際人として、よりよい環境の実現のために、どのように行動すべきか、国際的課題の解決に向けて主体的に追究しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

世界史A (午後授業)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
使用教科書	「高等学校世界史A 新訂版」(清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前 期	第1章 ユーラシアの諸文明 第2章 文明圏の交流と変容	風土、民族、宗教などに着目し、ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特質を学習する。
	第3章 ヨーロッパの再編と大西洋世界	多様な国々が対等な国際関係のもとで競争を繰り広げた近世ヨーロッパが、世界の一体化にどのようなイニシアティブを果たしたのかを理解する。
	第4章 拡大する欧米の衝撃とゆれる アジア・アフリカ	16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を学ぶ。
後 期	第5章 世界戦争の時代 第6章 大戦後の世界と現代社会	地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程を学び、人類の課題について考える。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査、課題提出、授業への関心・意欲・態度を総合的に判断する。
留意事項	特になし
アドバイス	現代世界とのかかわりに注意しながら世界史を学びます。授業での生徒の反応を検証しながら授業展開を調整します。

日本史A (午後授業)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	私たちが生活する日本列島での歴史を、開国以後日本が急速に近代化される過程など近現代史を中心に学習する。歴史的思考力を培い、主体的に生きる資質を身につけることを目標とする。		
使用教科書	「高等学校日本史A 新訂版」(清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第2章 近代への転換 第2章 大日本帝国の形成 第3章 大日本帝国の展開 (異国船の接近と幕藩体制の動揺から日露戦争までを扱う)	開国以後、明治維新を経て日本が急速に近代化されていく過程を国際環境と関連づけながら、日清戦争、日露戦争までを学習する。
後期	第4章 両大戦間の世界と日本 第5章 15年戦争と日本・アジア (第1次世界大戦から15年戦争までを扱う) 第6章 戦後改革と高度経済成長 第7章 現代の世界と日本 (敗戦後の占領の時代から今日までを扱う)	第一次世界大戦前後から第二次世界大戦(15年戦争)終結までの歴史を国際社会の動向と関連づけながら学習する。 第二次世界大戦(15年戦争)後の戦後改革と復興、高度経済成長と公害、そして今日の日本について国際社会と関連づけて学習する。

3 評価

履修の条件	日本史Bとの同時履修はできない。
評価の方法	定期考査、課題の提出状況、授業への取り組み態度を総合的に判断する。
留意事項	特になし
アドバイス	継続は力です。休まず粘り強く取り組みましょう。

政治・経済 (午後授業)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	現代の政治・経済に関する基本的な概念や理論を学習し、政治・経済についての基本的な考え方を身につける。また、これらの学習を生かして、時事問題についても考察する。		
使用教科書	「最新政治・経済 新訂版」(実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 現代の政治	民主政治の本質や現代政治の特質について学習し、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察する。
後期	2 現代の経済	現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、現代経済の仕組みや機能について理解し、経済についての基本的な見方や考え方を身につける。
	3 現代政治・経済の諸課題	政治や経済などに関する基本的な理解をふまえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探求する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深める。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への関心・意欲・態度を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	通年にわたり、現代の政治や経済に関する基本を学習し、現代の日本及び国際社会に抱える諸課題を考察します。ただし、授業での生徒の反応を検証しながら授業展開を調整します。

倫理 (午後授業)	単位数	2単位 (70時間 45分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	通年にわたり、様々な宗教や哲学、思想などを基に自己のあり方、生き方を考察し、社会で生きる人間としての自覚を深めていく。		
使用教科書	「高等学校 新倫理 新訂版」 (清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 第2章 人生における宗教 第3章 人生の知恵 第4章 人生における芸術	「私とは何か」「人間とは何か」という問いへの考察を重ねてゆくことを通して、真理を探究する態度を養う。青年期が自主自立へ向かう大切な時期であること学ぶ。 ギリシャ先哲の思想や一神教の知識を身につける。東洋の人びとの精神形成に大きな影響を与えた、仏教・儒教等を理解する。 芸術が人間に生と美を与える事を知る。
後期	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚 第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	現代の人間の倫理的な課題についての思索を深め、国際社会に主体的に貢献しようとする人間のあり方生き方について考える。 日本の風土や伝統、外来思想の受容との関わりにおいて、日本人の人間観、宗教観、自然観についての理解を深め、国際社会に生きる主体性のある日本人としての自覚を深める。 現代の倫理的課題を深く学ぶことで、今日に生きる人間の課題について考える。生命の操作や地球環境問題など現代の倫理的な諸課題を提起し、その解決に向けて生徒自らの思考を喚起する。家族関係の本来の意義やたがいに支え合う地域社会のあり方を考える。持続可能な社会の形成と人類の福祉と平和とに貢献することを考える。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への関心・意欲・態度等を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	様々な価値観が入り乱れ、めまぐるしく変化する現代社会において、よりよく生きるためには何が必要なのか。共に考えましょう。

地理総合 (夜間部)	単位数	2単位 (70時間 40分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	世界の生活文化の多様性や、防災、地域地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システム、諸資料を用いて、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 地理に関わる事象について、自然や文化などと関連させて、多面的・多角的に考察できることをめざす。地理的な課題の解決に向けて構想したり、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		
使用教科書	わたしたちの地理総合 世界から日本へ 基本地図帳 (ともに二宮書店)	補助教材	プリント (適宜配布)

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1章 地図とGISの利用	球面上での生活や世界地図、国家の領域について学習する。 地図の効果的な活用方法について学習する。
	第2章 生活文化の多様性と国際理解	世界の自然環境や産業の発展の様子について、人々の生活と関連づけて学習する。
後期	第3章 地球的課題と国際協力	食料問題、人口問題、資源・エネルギー問題などの諸問題などに注目して考察する。
	第4章 生活圏の諸課題	地震や津波などを事例にしながら、日本の自然災害について考察する。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、生活文化の多様性や地域・地球的課題などを理解しているとともに、地図などを用いて、適切かつ効果的に調べ、まとめている。	地理に関わる事象の意味や特色について人間と自然、社会的関係に着目して、多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けた構想をしたり、説明したりしている。	地理に関わる諸事象について、社会の形成者としてよりよい社会の実現のために、課題解決に向けて主体的に追究、解決しようとしている。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

地理B (夜間部)	単位数	4単位 (140時間 40分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	「地球人」として必要な地理的現象を学習し、日本と世界とのかかわり、国際的な問題などに主体的に係わっていかうとする態度を育てる。		
使用教科書	「新編 詳解地理B 改訂版」 「基本地図帳」(ともに二宮書店)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 地図と地理的技能 ア 地理情報と地図 イ 地図と地域調査 2 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境 イ 資源と産業 ウ 人口と村落・都市 エ 生活文化と民族	地図の歴史、知識、地図の種類と特徴などを学び、地図を活用できる力を身につける。 世界全体を視野に入れ、自然環境・資源と産業・都市・生活文化・民族・宗教の多様性を学習する。
後期	3 現代世界の地誌的考察 ア 現代世界の地域区分 イ 現代世界の諸地域 ウ 現代世界と日本	多様な地域区分から、現代世界の特色を理解する。 世界の国や地域をいくつか取り上げ、それぞれの性格を多面的に理解する方法を身につける学習をする。 地球規模の視野から客観的に日本の国土を検討し、その特色や課題を考える。

3 評価

履修の条件	地理Aの履修後の選択が望ましい
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への関心・意欲・態度を総合的に評価します。
留意事項	特になし
アドバイス	1年次必履修の「地理A」をさらに深めた内容です。授業での生徒の反応を検証しながら授業展開を調整します。

歴史総合 (夜間部)	単位数	2単位 (70時間 40分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	近現代史を中心とする歴史を、わが国の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
使用教科書	「私たちの歴史総合」 (清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1編 歴史の扉	歴史を学ぶ心構えと、世界全体の中で日本の歴史と各国の歴史がどのように関連しているのかを学び、考える。
	第2編 近代化と私たち	前近代から近代に向かう歴史の大まかな流れ、日本と諸外国の関係性を歴史的観点から学ぶ。
後期	第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	国民国家形成と国際社会の変化の中で、二次にわたる戦争が起こっていく過程を中心に、戦争の悲惨さや恐ろしさを学び、再び繰り返されないようにするにはどうしたらよいかを学ぶ。
	第4編 グローバル化と私たち	戦後の国際社会の秩序形成を学び、現代のグローバル化した社会の成り立ちと現代社会の課題などについて考える。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史に関わる諸事象に関して、諸外国との関係性や地域・地球的課題などを理解しているとともに、地図や歴史資料などを適切かつ効果的に用いて設問に答えたりまとめたりしている。	歴史に関わる事象の意味や影響についてその関連性に着目して、多面的・多角的に考察し、設問に答えたり、歴史的な課題の解決に向けた方策や構想を説明したりしている。	授業にきちんと参加し、課題に真剣に取り組むことを通して日本と世界の関係性を歴史的に理解し、グローバル化する社会の課題解決に向けて主体的に追究、解決しようとしている。

日本史A (夜間部)	単位数	2単位 (70時間 40分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	私たちが生活する日本列島での歴史を学習します。特に開国以後日本が急速に近代化される過程など近現代史を中心に行います。歴史的思考力を培い、主体的に生きる資質を身につけることをめざす。		
使用教科書	「高等学校 日本史A 新訂版」(清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第3章 近代への転換 第2章 大日本帝国の形成 第3章 大日本帝国の展開 (異国船の接近と幕藩体制の動揺から日露戦争までを扱う)	開国以後、明治維新を経て日本が急速に近代化されていく過程を国際環境と関連づけながら、日清戦争、日露戦争までを学習する。
後期	第4章 両大戦間の世界と日本 第5章 15年戦争と日本・アジア (第1次世界大戦から15年戦争までを扱う) 第6章 戦後改革と高度経済成長 第7章 現代の世界と日本 (敗戦後の占領の時代から今日までを扱う)	第一次世界大戦前後から第二次世界大戦(15年戦争)終結までの歴史を国際社会の動向と関連づけながら学習します。 第二次世界大戦(15年戦争)後の戦後改革と復興、高度経済成長と公害、そして今日の日本について国際社会と関連づけて学習します。

3 評価

履修の条件	日本史Bとの同時履修は認めない。
評価の方法	定期考査、課題の提出状況、授業への取り組み態度を総合的に判断する。
留意事項	履修条件に注意
アドバイス	継続は力です。休まず粘り強く取り組みましょう。

日本史B (夜間部)	単位数	4単位 (140時間 40分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
使用教科書	「高等学校 日本史B 新訂版」(清水書院)	補助教材	各種プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	「文化と国家の形成」 「古代国家の確立」 「中世の社会の成立」 「中世社会の展開」 「統一政権の成立」 「幕藩体制の展開」	旧石器時代から平安時代までの日本列島における社会・文化について理解する。 武家政権の成立から戦国時代までの社会・文化における武士が政治力をつけていく過程について考察する。 織豊政権から江戸時代における社会・文化について、世界史的な流れと関連させて考察する。
後期	「大日本帝国の形成」 「大日本帝国の展開」 「15年戦争と日本・アジア」 「戦後改革と高度経済成長」 「現代の世界と日本」	ペリー来航から明治時代までの社会・文化についてアジアにおける国際環境の変化や国際関係の推移に着目して考察する。 満州事変から第二次世界大戦にいたる日本の歴史の展開について理解する。 第二次世界大戦後の日本について、世界の動きと関連させて総合的に考察する。

3 評価

履修の条件	日本史Aの履修後の選択が望ましい。
評価の方法	① 授業への参加態度 ②出席状況 ③定期考査 ④課題の提出 を総合的に判断する。
留意事項	教科書や筆記用具など必要な物を必ず持参し、科目担当者の指示をしっかりと聞くこと。
アドバイス	原始から現代までの日本の歴史を、文化や国際関係もふまえながら「日本史A」よりも詳しく学習していきます。私たちの生活・文化がどのような過程で成立していくのか発見しよう。

公共 (夜間部)	単位数	2単位 (70時間 40分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	広い視野に立って、公共の重要性について理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する力を養う。人間としてのあり方生き方について考える力を養い、公共という概念を理解し、主権者として必要な社会的能力を養う。		
使用教科書	「公共」 (実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1部 公共の扉 【1 青年期と自己の形成】 【2 人間と社会】	青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。 先哲の思想を知り、人間としてよりよく生きることや他者との共生について考え、個人の権利や自由、人間の尊厳を守るために社会が果たす役割や意義を理解する。
	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 【3 現代の民主政治と日本国憲法】	民主主義の重要性や政治のしくみについて理解し、私たちの生活とのかかわりや公民としての資質について考察する。
後期	【4 現代の経済社会と国民生活】 【5 国際社会と人類の課題】 第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	さまざまな経済制度のしくみ、経済活動の変化などについて学習する。日本経済の歴史と現状、これからの日本経済を考える基礎事項について学習する。 国際関係の政治経済上のルールや、国際社会の現状、人類の課題と国際協力について学習する。 持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深める。

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
公共に関わる諸事象に関して、社会の仕組みの基本となっている多様な集団や組織を理解しているとともに、図表を解読し、適切で効果的に調べ、まとめている。	公共に関わる事象の意味や仕組みについて、人間と社会のかかわりに着目して多面的・多角的に考察し、現代社会の抱える課題の解決に向けた構想をしたり、説明したりしている。	公共に関わる諸知識について、主権者としてよりよい社会の実現のためにどのように行動すべきか、課題の解決に向けて主体的に追究しようとしている。

現代社会 (夜間部)	単位数	2単位 (70時間 40分授業)
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	広い視野に立って、現代の社会について理解する。現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する力を養う。人間としてのあり方生き方について考える力を養い、良識ある公民として必要な能力を養う。		
使用教科書	「最新現代社会 新訂版」 (実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	第1部 わたしたちの生きる社会	地球観光問題、資源と食料、科学技術と生命、宗教、芸術、豊かな社会について、現代人の視点から考える。 青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。先哲の思想や宗教の意義に触れ、生き方を考察する。 民主主義の重要性や政治のしくみについて理解し、私たちの生活とのかかわりや公民としての資質について考察する。
	第2部 現代の社会と人間 【1 青年期と自己の形成】 【2 現代の民主政治と日本国憲法】	
後期	【3 現代の経済社会と国民生活】 【4 国際社会と人類の課題】	さまざまな経済制度のしくみ、経済活動の変化などについて学習する。日本経済の歴史と現状、これからの日本経済を考える基礎事項について学習する。 国際関係の政治経済上のルールや、国際社会の現状、人類的課題と国際協力について学習する。 持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深める。
	第3部 共に生きる社会をめざして	

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への参加態度を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	倫理・社会・文化・政治経済など多岐の領域に関わる内容です。日頃から身の回りの事項に関心を持って生活をすれば、興味をもって毎回の授業に取り組めるでしょう。

政治・経済 (夜間部)	単位数	2単位 (70時間 40分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	現代の政治・経済に関する基本的な概念や理論を学習し、政治・経済についての基本的な考え方を身につける。また、これらの学習を生かして、時事問題についても考察する。		
使用教科書	「最新政治・経済 新訂版」 (実教出版)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 現代の政治	民主政治の本質や現代政治の特質について学習し、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察する。
	2 現代の経済	現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、現代経済の仕組みや機能について理解し、経済についての基本的な見方や考え方を身につける。
後期	3 現代政治・経済の諸課題	政治や経済などに関する基本的な理解をふまえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深める。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への関心・意欲・態度等を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	通年にわたり、現代の政治や経済に関する基本を学習し、現代の日本及び国際社会に抱える諸課題を考察します。ただし、授業での生徒の反応を検証しながら授業展開を調整します。

倫理 (夜間部)	単位数	2単位 (70時間 40分授業)
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	通年にわたり、様々な宗教や哲学、思想などを基に自己のあり方、生き方を考察し、社会で生きる人間としての自覚を深めていく。		
使用教科書	「高等学校 現代倫理 新訂版」(清水書院)	補助教材	プリントなど

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 現代に生きる自己の課題	自己の生きる課題との関わりにおいて、青年期の意義と課題を理解するとともに、哲学や宗教を手がかりとして、人間の存在や価値について思索を深める。
	2 人間としての自覚と生き方	
後期	3 現代社会と倫理	現代の人間の倫理的な課題についての思索を深め、国際社会に主体的に貢献しようとする人間のあり方生き方について考える。
	4 国際社会に生きる日本人としての自覚	日本の風土や伝統、外来思想の受容との関わりにおいて、日本人の人間観、宗教観、自然観についての理解を深め、国際社会に生きる主体性のある日本人としての自覚を深める。
	5 現代の諸課題と倫理	現代の倫理的課題を深く学ぶことで、今日に生きる人間の課題について考える。

3 評価

履修の条件	なし
評価の方法	定期考査・課題提出・授業への関心・意欲・態度を総合的に評価する。
留意事項	特になし
アドバイス	様々な価値観が入り乱れ、めまぐるしく変化する現代社会において、よりよく生きるためには何が必要なのか。共に考えましょう。